

飯南

いいなん

- 平成21年度 一般会計補正予算
- 一般質問
- 常任委員会報告
- 飯南町への想い（寄稿）

飯南町議会 島根県飯石郡飯南町下赤名890番地
飯南町議会事務局 TEL:0854-76-2190 FAX:0854-76-2867

第18号

平成21年7月17日



華やかな志津見の初夏

恒例となっていたポピー祭りが今年で幕を閉じました。建設中の志津見ダムへの試験放水がはじまり、会場の東三瓶フラワーバレーは一時的に水没してしまいます。毎年可憐に咲くポピーの花を求めて多くの観光客が来場され、散策したり、イベントを楽しんだり、写真撮影にと賑わいを重ねていました。水没してしまうのは残念ですが、また新たな情景を織り成してくれることでしょうか。そしてまた、ダムの水は再び引くようです。その時にポピーの花が再びみれるようにしていきたいものです。

我が町の願い

教育の場は田舎へ

「教育の基本は家庭にあり」と福沢諭吉翁は言う
家庭とは、豊かな山と清らかな川のほとりで
親子三代が睦まじく暮らし、
子供は祖父母を敬い、いたわることを知り、
父母は家の柱として勤勉に働き、
祖父母は豊かな知恵で家族を導く
このような中で育った子供は、心優しく、義に厚く
ああやはり教育の場は田舎にあり

厳しい受験戦争の中で、他人を蹴落とすことばかり思い
エリート意識の中で、人を思いやる心を忘れ
情を失い、経済効率だけを重んじ
いつの間にか人生の先輩を社会の片隅へ追いやり
弱い人を追い詰めて行く
ああやはり教育の場は都市にあらず

山に登れば、心の中のつまらないわだかまりが吹き消され
川に遊べば、心の中のつまらないねたみが洗い流される
土にまみれて米を作り、草をむしって野菜を作り
家族のようにして牛を育てる
だから子供たちは命の大切さをよく知っている
ああやっぱり教育の場は田舎にあり

その田舎が、静かに、秘かに消えようとしている
純粋な田舎で生活が営めなくなってきたからだ
米価の低迷、山林の収入減、畜産価格の下落等々……
農家の収入源は徐々に痩せ細ってきている
だから人口減少にも歯止めはかからない

よい国にしたいと思うなら、教育の場は田舎に
よい国にしたいと思うなら、教育の基本は家庭に
百家争鳴している国の方々に改めて具申する

6月定例会は、6月9日から6月19日までの11日間の日程で開かれました。

6月定例会で可決された主な議案は次のとおりです

- 報告** 一般会計及び簡易水道事業特別会計繰越明許費の報告など三件
- 承認** 平成二十年度一般会計補正予算など七件
- 予算** 平成二十一年度一般会計補正予算など四件
- その他** 飯南町辺地に係る総合整備計画など四件



平成21年度 一般会計補正予算は 1億7千5百75万円増額

各会計	補正予算	予算総額
一般会計	175,752千円	6,668,932千円
特別会計		
国民健康保険事業	1,376千円	782,869千円
下水道事業	3,803千円	524,851千円
病院事業	89千円	851,915千円

道路河川整備
増額
事業費など

請願

(請願者) 島根県社会保障推進協議会
会長 池 潤 栄 助
(内容) 国保の資格証明書をめぐる請願
(審査委員会) 総務厚生常任委員会
(審査結果) 趣旨採択

陳情

(請願者) 全国福祉保育労働組合島根支部
執行委員長 小 村 祥 子
(内容) 公的保育制度の堅持・拡充と子育て支援予算の増額を求める請願
(審査委員会) 総務厚生常任委員会
(審査結果) 採択

(陳情者) 葉書C型肝炎しまね弁護団
代表 妻 波 俊 一 郎
代表 岡 崎 由 美 子
(内容) 肝炎対策のための基本法の制定を求める陳情
(審査委員会) 総務厚生常任委員会
(審査結果) 採択

(陳情者) 野萱自治区長 今 岡 和 登
野萱自治会長 吉 田 徹 明
野萱自治会長 早 樋 雄
(内容) 町道下野菅線の拡幅についての陳情
(審査委員会) 教育経済常任委員会
(審査結果) 採択

6月定例会 町政を問う 一般質問



Q 尾道松江線アクセス道整備促進を
A 整備実現で地域振興を図る

瀧尻 行雄議員
近い将来、尾道松江線の全線開通を受け、高速道アクセスに向けて「瑞穂・高野インターアクセス」新銀山街道整備促進期成同盟会が活動しています。



これは広域連合の促進、産業の振興と余暇活動の多様なニーズを導き、地域全体の発展を目的としています。また、関係の5市町の連携も行われています。町民への広報活動を強化し、壮大な道路網の整備による経済効果を示しながら、アクセス道の整備促進を積極的に展開すべきでは。

山崎 英樹町長
尾道松江線への幹線道路のネットワーク化による時間短縮効果は見込めませんが、観光交流施設、森林セラピーの魅力アップや木質バイオマスを活用した産業

振興など、島根・広島中央中国山地圏域の産業連携や観光連携を進め、道路整備を実現し定住促進に結び付けます。今後とも関係自治体と協力し、関係機関に強く要望します。



尾道松江線高野インターチェンジ付近 (イメージ図)

Q 新介護認定方式は改めるべきでは
A 不都合があれば要望



伊藤 好晴議員

介護保険制度の新介護認定方式は、従来より軽度判定される方があります。リハビリなどに力を注いでも、身体状況などの改善が望めないのが現状であり、新しい認定方式は、介護度を低くして保険を使わせない方向に作用していると考えられます。

これを撤回して、利用者の立場に立った保険制度に転換するよう、国へ求めるべきでは。

山崎 英樹町長
軽度判定された方はおよそ20%で、重度判定された方は30%です。

今後も検証結果を注視し、現場の声を聞きながら不都合があれば、国に要望します。

Q 子供の医療費は無料に
A 親としての責任で負担を

伊藤議員

乳幼児等医療費助成制度が中学校卒業までに拡充されたことは有意義です。

子育て世代の要望は完全無料化であり、子育てを支援して少子化に歯止めを掛ける一助にする考えは。

山崎町長

4月から、小・中学生の通院は月額1,000円以上、入院は2,000円以上については町が負担するよう、制度の拡充をしました。

無料化の意見も承知していますが、親の責任としてこれを負担してください。



ポピー祭りのイベントで

Q 医療費の委任払い制度導入を
A 医療機関と協議

伊藤議員

医療費はかかった金額をまず負担して、助成部分を後から返してもらおう「償還払い」の制度が導入されています。

助成があっても必要な金額は持参する必要があり、受診抑制が起きない「委任払い」の制度を導入する考えは。

山崎町長

委任払いにしたことで、早期に治療を受ける環境づくりになるなら取り入れたと思います。

医療機関に検討を指示しており、協力を得られるなら取り入れます。

6月定例会 町政を問う 一般質問

Q 地上波デジタル放送への対応は
A 進捗状況に応じてお知らせ

伊藤議員

地上波がデジタル化され、アナログテレビが映らなくなるなどの宣伝が繰り返されている中、雲南夢ネット飯南局から、今使っているテレビで視聴できる旨の文書が配布されました。

この内容について多くの方から問い合わせがあり、きちんと説明する必要があるのでは。

山崎町長

現在お使いのアナログテレビで、そのままデジタル放送を見ることが可能であり、周知しています。

デジタル化により高度なサービスを提供し、負担は抑える方式を検討しています。

進捗状況に応じて周知に努めます。

伊藤議員
本町には被爆者手帳をお持ちの方が50人近くあり、唯一の被爆国の自治体として非核宣言をすべきでは。

山崎町長

非核平和は宣言をしないに関わらず、世界の恒久平和を強く願っており、異論はありません。

宣言するに当たり、魂のある具体的な行動を考えており、もう少し研究します。

Q スクールサポーターの待遇改善を
A 県と町が定めた条件で配置

伊藤議員

スクールサポーターには、県事業と町単独事業があり、同じ業務に従事しながら賃金に差があります。さらに県から派遣されている先生には社会保険等の補償がありません。

同一労働、同一賃金が原



小さな児童を挟んで安全登校をしています（頓原小学校）

則であり、県と協議して不正を正すべきでは。

安部 亘 教育長

スクールサポーターは、教員の負担を軽減し、子供たちと向き合う時間をしっかりとる目的で配置しました。10名のうち2名が県費

で、8名が町単独での配置です。

県は教員免許を有し、定められた勤務条件の中で勤務し、町は免許の有無は問わず、財政状況や他の臨時職員等を勘案し給料を定めています。

社会保険への加入は、県費2名は5時間勤務で、その後3時間町費で勤務しており、対象となりません。

Q 有機栽培米の取組みと価格対策を

A エコ米80%を目指して



難波 俊司 議員

有機栽培米、いわゆるエコ米は、法人、集落営農、認定農業者等、積極的な取り組みがされています。エコ米栽培は、リスクは多いが収量は少なく、推進するには農家を支えていく必要があります。

米単価は60kg当たり500円高く買い取りされているが、飯南町の米は県下で一等米比率トップです。この水稲を支えていくには町のしっかりした支援が必要では。



7月3日に開催された共進会

山崎 英樹 町長

エコ米の生産は本年度が140ヘクタール。県内全体の20%が飯南町で作付されています。本町の80%をエコ米にする目標でJA雲南と協調し推進を図ります。

Q 直接支払制度の継続を

A 継続に向け努力

難波 議員

平成12年度から2期10年間実施されてきた中山間地域等直接支払制度は本年度が最終年度です。集落の今の状況から是非必要な制度と思うが。

山崎 町長

中山間地域等直接支払制度は農業経営安定や集落維持に欠かせない制度です。継続に向け、県とともに国への要望活動を行っております。

Q 農産物の生産拡大と市場開拓は指導体制の強化が必要

難波 議員

自然豊かな土地で生産された安心安全な農産物の需要は、伸びる可能性が大きい。

山崎 町長

里山コミッションで販売戦略は立てられているが不十分であり、具体的な指導を含む今後の体制は。

農業生産額が下がっている中、産直事業は伸びています。町内の販売額は1億円を超えています。後継者不足など今後の生産量の確保が難しい状況です。ヤマトイモ指導員設置、県普及員によるブドウの推進、JA雲南の指導員設置など、指導体制の強化が必要です。

Q 緊急経済対策で畜産へ支援を 今後も助成

難波 議員

和牛や乳牛の飼育農家は減り続けています。緊急経済対策で、飼育農家への補助金交付を推進すべきでは。

の導入制度に加え、県外雌牛の導入助成、県外の精液の購入助成を行っており、受精卵移植事業にも支援をしています。

山崎 町長
自家保留制度、基礎雌牛

団体、グループでの飼育推進、中山間地研究センターの林間放牧の研究成果などに期待します。

6月定例会 町政を問う 一般質問

Q 経済危機対策費で長期的施策を 合併浄化槽等の推進に対応

長島 議員

国の補正予算が成立し、当町にも3億4千万円余の配分が予測されます。この予算執行に当たっては、世界的流れである環境問題への重視や、長期的展望に立った産業の育成が求められています。



山崎 英樹 町長

森林セラピーを中心とした滞在型観光施設や道の駅周辺の充実やソフト面の強化の必要性を考えています。そのため、行政、住民の役割を明確にし、ともに行動を行います。

また、地域振興の基礎となる幹線道路の整備や本町の地域活性化のための支援措置を関係機関に強く要望します。

Q 尾道松江線開通後の取組みは 地域活性化対策の支援措置を

長島 正一 議員

横断道の開通は、交通量の減少により地域経済に大きな影響を及ぼすことが懸念され、住民による活性化に向けた取り組みが始まっています。

関係町村との観光施設、道の駅や行政機関との連携を強化し、道の駅周辺整備計画等の具体策を住民に示し、行政の役割を明確にすべきでは。

Q 高齢化社会を見据えた町づくりを 地域と話し合いながら検討

長島 議員

国の過疎研究会では、10年、20年後の超高齢化社会で、住民が安心して暮らせるよう、医療や福祉、買い物、交通手段などの生活を守る小さな拠点施設の整備の必要性を提言しています。

こうした中、旧頓原農協跡地の活用で、高齢者の生

山崎 町長
可燃ごみ処理には、町民一人当たり2万円の経費がかかっており、生ごみを減らす運動を呼びかけます。また、下水処理の推進には、当初予算15基の合併浄化槽を計画していましたが、多くの要望があり、今後補正予算で対応します。「ぶなの里」の集荷システムについては、デマンドバス等いろいろな方法を検討します。

集荷支援や学校給食への供給等の推進をすべきでは。

山崎 町長

活を守る身の丈に合った施設整備を行い、小売店支援等、将来に向けた新たな社会システムの構築が必要では。

山崎 町長

集落カルテによりますと頓原地区の高齢化率は10年後54.1%、空き家比率も14%となっております。



地元産品直売でにぎわう（ぶなの里）

連たん地の空き家改修（3戸）等、高齢化を考慮した取組が必要と考えています。拠点整備については、運営主体を誰が担うのか、地域と話し合いを進めながら検討します。

Q エコ米に強力な支援を
A 拡大に向け推進に努める

門 眞一郎議員

消費者がエコ米といえど本町を連想することが強い産地の条件です。県下で生産量、質、味のすべてが一番であることが重要です。農家のやる気を喚起するために、強力な支援により、生産拡大の更なる推進を図る考えは。また、JAをしっかりとリードし、方向をこちらに向けていくのが首長としての使命では。

山崎 英樹町長

エコ米の関係が統一した認識、目標を持つため、「飯南町エコロジー米生産推進協議会」を設置し、推進に向けた取り組みを進めています。生産拡大に向け、必要な支援、施策の推進に努めます。また、指摘のように先頭に立って努めます。

Q 水稻の無消毒種子殺菌施設を
A 推進協議会やJAで検討

門 議員

頓原地区では水稻種子の殺菌施設があるので、田植え以降の作業の中でエコ米か一般米か選択して生産できますが、赤来地区では施設がなく、取り組み拡大の支障となっています。

山崎町長

無消毒種子の殺菌は技術的な課題が多く、推進協議会やJA、県普及部で研究を進めており、育苗センター等もあわせて検討します。行政としてやるべきことは、しっかりと果たします。

Q 国保健診を病院で
A 医師体制が厳しく困難

門 議員

国民健康保険の診療報酬は上昇傾向にあり、健診の受診率は依然として低いままです。国保の加入者の健診はJA厚生連への委託事業で、本町の医師が直接関わることはありません。

山崎町長

保険医療福祉推進会議を設置し、医療機関としてどう健康管理に関わるか研究している中、医師体制が厳しくなり、町の医療機関で健診業務を積極的に行うことは困難な状況となっています。

町民がより身近に感じる医療を行うため、一般外来を週1日休んでも健診の日を設定すべきでは。

健診結果を保健分野と連携しながら、フォローしていく体制を整え、さらに健診の受け入れ態勢の充実を図ります。また、受診率向上に取り組めます。

6月定例会
町政を問う
一般質問

Q 農業収入と雇用者数の今後は
A 総合振興計画を基本として

難波 伸一郎議員

アメリカの対外債務が返済不能といわれる中、日米の株価は上がっています。年内にこれらが暴落する可能性もあり、地方公共団体の独自性が問われます。両町合併前のピーク時の農業収入と、役場を含めた雇用人員を現在と比較した数字で示し、今後の目標を示されたい。

山崎 英樹町長

平成2年に水稻、野菜などで17億5千万円、畜産で12億5千万円、合計30億円の生産額。平成18年度、水稻野菜などが12億3千万円でピーク時の約7割、畜産は豚を除いて7億4千万円で、ピーク時の6割です。雇用は昭和60年に旧赤来

Q 施設提供で農業振興を
A 支援を検討

難波議員

雨水を利用した水耕栽培で、多品種多収と販売のノウハウを持つ民間企業があります。行政がハウス施設を作り民間にリースするなど、雇用と農業振興を図る考えは。

山崎町長

初期投資を中心に、町として支援することは必要であり、新規就農者への支援に併せて検討します。



健診風景



大万木より飯南町を望む





収穫されたニンニク

6月定例会 町政を問う 一般質問



志津見ダムポピー祭りのイベント

Q 里山コミッションと特産品開発は A 町内への経済効果を目指し

石橋 宏議員

里山コミッションの取り組みは約一年が経過し、その目的は情報発信と産業振興や観光などと聞いていますが、その成果と今後の取り組みは。

また、新たな特産品の開発も必要となるので、二点の提案をします。
①本町の特産として、ニンニク栽培を。
②クマ笹エキスの健康への調査、実証とPRの考えは。

山碕 英樹町長

この取り組みは、産業創出、特産品販売、販路拡大を進め、広島市内や東京圏の大手スーパー紀ノ国屋との取り引きが始まるなど、成果が上がっています。

①ニンニクは、本町のような高冷地に向けた作物であり、大規模にしていくには低温倉庫の整備なども必要です。特産品として産地化を進めるには、関係機関と連携を図り検討します。
②クマ笹エキスの健康実証は、製造会社の実施の見込みです。

また、町内への経済効果を高め、里山コミッションなどで販路拡大とPRに努めます。



Q 公園整備を国に要望 A 地元意向を反映

永井 章議員

志津見ダムは、平成23年度からダムの管理が予定され、今後、観光ルートとして期待されます。ダムサイトの周辺整備については工事現場跡地を緑地公園として整備し、維持管理も国がすると聞いています。

地元の意見を聞き、立派な公園建設を国に要望するべきでは。

山碕 英樹町長

地元の皆さんが望まれる公園になることが大切です。景観等、自然に調和したもののや観光の活性化になるものなど多方面から考え、地元の意向を反映するように要望します。



Q 国道54号線、歩道の拡幅は A 安全安心な歩道の確保に

石橋 議員

高校、中学生の自転車通学利用する歩道が狭く、危険な箇所があります。特に保賀地内は、頓原方面から飯南高校への通学生が多く、歩道が狭いため危険です。

歩道拡幅を関係機関へ強く要望すべきでは。

山碕 町長

幅員が一メートル程度の狭い区間があり、自転車通学には大変危険です。安全安心な歩道確保のため、今後さらに整備要望に努めます。

議会を傍聴しましょう

永井議員
町道角井境線はダム対策で道路整備されました。この路線を観光ルートとして利用する車両が増加し、特に万場橋付近が大型車の交通難所です。冬季間の交通安全面からも早期に整備が必要では。

山碕 町長

本町の道路整備計画を検討する中で、角井境線以上に整備が必要な道路が数路線あり、それを優先と位置づけています。現地を確認した中では、特に冬季には危険性が高いことから、注意標識の設置や、こまめな除雪を指示しています。

Q 角井境線の早急な整備を A 道路整備計画に基づいて



狭い歩道を通学する飯南高校生

総務厚生常任委員会

■専決処分に意見

平成21年度一般会計補正予算は、雲南市・飯南町事務組合の非常勤職員、医師確保対策のための非常勤職員の人件費等620万円の増額補正で、専決処分に対する承認を求めるものですが、次の意見書を付して承認しました。

〈意見書〉

(略) 本予算補正は時間的余裕の厳しさは理解できるが、本件の事案が生じた時点から考慮すれば専決処分でも対処できると考えられる。

特に本件の内容は政策的予算であることから安易に専決処分すべきではない。

今後も専決処分については、慎重に対処されたい。

■大田線をデマンドバスで継続

今まで運行していた石見交通バスの運行廃止に伴って、美郷町が赤名までデマンドバスを運行するものです。飯南町民も利用できますが、この運行に対する飯南町の負担はありません。

■光ケーブル敷設

飯南町光ケーブル敷設事業請負契約の締結を可決しました。入札では応札した4社のうち2社が最低制限価格を下回ったために失格になっています。最低制限価格を設けることへの是非を問う意見がありました。



都加賀に設置された通信鉄塔

教育経済常任委員会

■牛肉消費拡大対策に500万円

高級牛肉の消費が悪化し、和牛の市況が低迷しています。市況の回復を図るため、消費の促進を目的とし500万円が計上されました。

本町産の和牛肉を販売する店舗は限られており、効果を疑問視する声が続出、担当課との話し合いにより、学校給食へ和牛肉メニューを採用し、子供たちに地元産の和牛肉の美味しさを知ってもらうこと、和牛共進会で試食即売会を実施すること、全世帯に和牛肉割引券を配布し、家庭での消費を促進することなど提案しました。



子牛共進会での和牛肉消費拡大

■環境整備により雇用促進

緊急雇用対策事業として、10名程度を半年間雇用し、学校周辺などの環境整備を実施することで、派遣切等で職を失った人の雇用を行う事業です。

■町道下野萱線の拡幅陳情を採択

町道下野萱線の一部に未改良区間があり、車両の離合が困難となっています。特に冬期間は除雪が困難となり、交通の確保のため陳情を採択しました。

町道下野萱線の現地確認



赤名庁舎内で働く職員たち



Q 人事評価制度の成果は
A 一定の評価と新たな課題も

小野 覚議員
平成18年10月から職員の人事評価制度が管理職を対象に試行されています。その後2年半経過しているが実態は、さらに全職員を対象とした導入についての進み具合は、勤勉手当は勤務時間のほかに勤務成績を織り込んで支給すべきと考えるが、

山碕 英樹町長
人事評価制度を行っていくための課題を探ること、職員の人事評価に対する意識啓発を図るという二つの目的で試行を行いました。

目標管理型実績評価に取り組んだことで、町が掲げる目標にあわせた設定、それに対する本人の客観的な達成度の確認と訓練はでき、一定の評価をしています。さらに年功序列にとらわれない能力、実績に基づく人事管理の必要性を強く感じ、一方で本町のような職員数が少ない町で徹底した人事評価制度が可能なのか疑問が生まれました。一般職についての人事評価制度は実施していません。勤勉手当は一律の支給割合で支給していますが、人事評価制度が確立したとき、新制度を持って支給することが基本だと思っています。

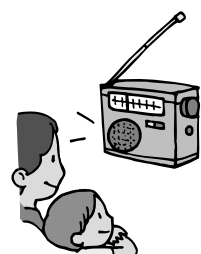
6月定例会 町政を問う 一般質問

Q 町内にラジオ中継所を
A 近隣の自治体と協議



櫻井 秀憲議員
本町はNHKラジオの電波が悪く、地震災害が起きたときなど、情報を得ることが困難です。本町にもNHKラジオの中継所をつくるよう、関係機関へ要望する考えは、

山碕町長
本町のような山間部では、一様に電波状態が悪く、新設は全国で年間一〜二カ所程度の設置がされています。本町を含む山間地域を対象に、近隣の自治体と協議します。





向山さんの家族

「飯南町に住んで」

飯南町に住んで3年目を迎えることとなりました。移住前は、福岡県北九州市に住んでいました。

以前から田舎暮らしに興味があり、5月に富士山に遊びに行った事がきっかけで、田舎暮らしを決意しました。ここを訪ねたのが6月です。

最初に飯南町を訪れた時は、涼しくて空気がおいしかったことをおぼえています。「川が澄んでいて、山が近くにある町」っていいなあと思っていました。

飯南町に住んで、ミミズや蛙を見て驚かなくなりました。土いじりをする、必ず出てくるので驚いてる場合ではありません。それだけ、虫たち

飯南町上来島 向山 辰夫

にとつて、おいしくて、住みやすい大地なんですよ。

日々の健康法には、スポーツジムの代わりに、草刈、薪割り。冬は、雪かきを大変たいへんといいながらも楽しんでいきます。

飯南町は水がおいしいです。もちろん、野菜も島根和牛もやまめもおいしいです。

福岡時代は、車で1時間かけて飲める水をもとめて汲みにいってました。

PCの仕事をしているため、目を休めるのに窓から見える景色は最高です。山は季節を教えてくれます。

BGMは、鳥のさえずり、蛙の合唱など、虫の声・雨の音・雪の音、いろんな音が聞こえてきます。都会の騒音とは違って、心地よい音です。

夜景は、人工のネオンではなく、満天の星と夏はホタル、冬は月が照らす雪の輝きです。

何よりも、子供が子供らしくなってくれた事が飯南町に来て一番よかった事です。以前は仕事の都合で、大人の人と接する事が多かったため、大人びていたと思います。

交通量の多いところに住んでいたため、外に一人で出か

けさせることができませんでした。

飯南町では、近所のお兄さんお姉さんが妹のようにかわいがってくれるので、子供らしくのびのび遊ぶ事ができ、自然の中で、たくましく育ってくれています。

春と秋には、農事組合法人の眞栄グループとトータル・サポート・プランナー(株)の主催するイベントに参加させていただいています。

移住して来た当初からお世話になっており、田植え、稲刈り、とうふ作りなどなど貴重な体験を毎回楽しませていただいています。毎回、笑顔で迎えてくれるんです。

ぼたん祭りにいったり、半夏祭りにいったりと飯南町内でのイベントも楽しませてもらっています。「お仕事戦隊イソガシンジャー」に会えるのを子供と楽しみにしています。

自治会に入ることであるのをお誘いをいただき、充実した日々をおくっています。

「住めば都」って言葉を実感しています。都会では決して手にいれる事のできない飯南町での暮らしを、これからも楽しんでいきたいと思います。

6/28

町民健康ウォーク大会

「飯南町まめなウォーカーの会」主催によるウォーク大会開催され、来島会場(6kmコース)では男女27名が参加しました。



7/3

半夏子牛共進会

景山道善さん(花栗)の愛牛が首席になりました。



編集後記

振り返れば、4年の月日は短く、支持者の皆さんに支えられ、選挙を戦った日がついにこの前のような気がします。

議員ひとりひとりが新町建設に志を持ち、それぞれのテーマに取り組んできました。それもとわずかで任期を迎えます。

一般質問では10人が最後の質問に立ち、町政に自分の志を反映させようと、執行部にぶつかり、執行部は全身でこれを受け止めた、4年間でもっとも緊張感のある一般質問でした。

7月の選挙で次も議会に送り出される人、議会を辞する人、それぞれに志を持ち、町民の皆さんの幸せを願い、ひとつのチームとして町政を担って来ました。このような経験をさせていたいただいたことに感謝し、心からお礼を申し上げます。

門 眞一郎

議会広報編集委員会

- 委員長 石橋 宏
- 副委員長 門 眞一郎
- 委員 小野 覚
- 委員 長島 正一
- 委員 難波伸一郎

